

千葉市感染症発生動向調査情報

2025年 第37週(9/8-9/14)

1 定点把握対象感染症(五類感染症の一部)

定点	報告定点医療機関数			
	第37週	第36週	第35週	第34週
小児科	16	16	16	16
ARI(急性呼吸器感染症)	26	26	26	26
眼科	5	5	5	5
基幹	1	1	1	1

上段:報告患者数、下段:定点当たりの報告数

定点当たりの報告数:報告患者数/報告定点医療機関数

定点	感染症	発生動向	9/8-9/14 第37週	9/1-9/7 第36週	8/25-8/31 第35週	8/18-8/24 第34週
小児科	RSウイルス感染症		6 0.38	13 0.81	13 0.81	9 0.56
	咽頭結膜熱		3 0.19	2 0.13	1 0.06	1 0.06
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	25 1.56	31 1.94	23 1.44	15 0.94
	感染性胃腸炎	↑	82 5.13	77 4.81	72 4.50	68 4.25
	水痘		0 0.00	3 0.19	1 0.06	0 0.00
	手足口病	↑	53 3.31	35 2.19	29 1.81	46 2.88
	伝染性紅斑		15 0.94	15 0.94	25 1.56	19 1.19
	突発性発しん		6 0.38	7 0.44	7 0.44	5 0.31
	ヘルパンギーナ	↑	22 1.38	17 1.06	21 1.31	27 1.69
	流行性耳下腺炎		1 0.06	1 0.06	0 0.00	0 0.00
ARI	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)		12 0.46	13 0.50	4 0.15	14 0.54
	新型コロナウイルス感染症	↑	133 5.12	125 4.81	142 5.46	132 5.08
	急性呼吸器感染症	↑	1,439 55.35	1,070 41.15	1,088 41.85	1,212 46.62
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎	↓	10 2.00	16 3.20	10 2.00	20 4.00
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	インフルエンザ入院		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	新型コロナウイルス感染症入院	↑	4 4.00	3 3.00	4 4.00	12 12.00

※「発生動向」欄のマークについて

<流行状況>

★★:「警報レベル」流行発生警報開始基準値以上(終息基準値を下回るまで継続表示)

★:「注意報レベル」流行発生注意報基準値以上

※警報レベル・注意報レベルについては、市感染症情報センターWebSiteの「警報・注意報の解説」のページをご覧ください。
<増減>:マークの対象は当該週又は前週の定点当たりの報告数が1.00以上

↑・↓:「増加・減少」定点当たりの報告数が前週より5%を超えた増加または減少

2 全数報告対象感染症 34 件

	感染症	性別	年齢層		感染症	性別	年齢層
結核	無症状病原体保有者	女	10歳未満	百日咳:27件	百日咳:27件	男女	10歳未満 4
	患者	男	40歳代			男女	10歳代 13
	患者	男	60歳代			男	20歳代 2
	無症状病原体保有者	女	80歳代			男女	30歳代 2
	腸管出血性大腸菌感染症	男	20歳代			女	40歳代 1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	女	50歳代			女	50歳代 2
	梅毒	女	20歳代			男女	60歳代 2
	-	-	-			女	80歳代 1

結核4件(109)、腸管出血性大腸菌感染症1件(30)、クロイツフェルト・ヤコブ病1件(4)、梅毒1件(48)、百日咳27件(839)の発生届があった。

※ ()内は2025年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが隨時訂正されるため変化します。

3 定点当たり報告数 第37週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

前週より減少し1.56となったが、過去5年の同時期と比べやや多いまま。年齢階級別の報告数は5歳が最多。

<感染性胃腸炎>

前週より増加し5.13となり、過去5年の同時期と比べ最多となった。年齢階級別の報告数は1歳が最多。

<手足口病>

前週より増加し3.31となった。年齢階級別の報告数は1歳が最多。

<ヘルパンギーナ>

前週より増加し1.38となり、過去5年の同時期と比べかなり多くなった。年齢階級別の報告数は1歳が最多。

<新型コロナウイルス感染症>

前週より増加し5.12となった。年代別の報告数は0-9歳が最多く、6歳が最多。

<急性呼吸器感染症>(第15週から調査開始)

前週より増加し55.35となった。年齢群別の報告数は1-4歳が最多。

<流行性角結膜炎>

前週より減少し2.00となったが、過去5年の同時期と比べ最多のまま。年代別の報告数は20-29歳が最多。

<新型コロナウイルス感染症(入院)>

前週より増加し4.00となった。

■ 各感染症のグラフ、インフルエンザ発生状況は、市感染症情報センターWebSiteでご覧いただけます。

・感染症発生グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2025.pdf>

・インフルエンザ発生状況

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/influ2025.pdf>

※ 感染症発生動向調査とは、感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の国民や医療機関への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及び蔓延を防止することを目的としています。

<参考>千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/index.html>